

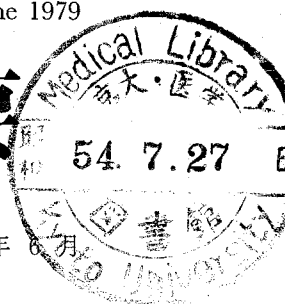
Title	表紙・目次 (泌尿器科紀要 第25巻第6号) 編集後記・編集委員・購読要項・投稿内規
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1979), 25(6): 650-650
Issue Date	1979-06
URL	http://hdl.handle.net/2433/122440
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

泌 尿 器 科 紀 要

第 25 巻 第 6 号

到着後 1ヶ月間

1979年6月



球海綿体反射の臨床的研究

—逆行性尿道抵抗と尿道外括約筋電図の同時測定—.....岩崎昌太郎... 535

腎細胞癌の下大静脈内腫瘍栓塞のX線診断学的検討.....増田富士男・ほか... 545

非閉塞性上部尿路感染症における

腎シンチグラフィによる分腎機能検査.....川村 寿一・ほか... 555

尿管回腸端々吻合による回腸導管造設術.....増田富士男・ほか... 569

高齢者膀胱癌に対する治療法の選択について.....今川 章夫・ほか... 575

辜丸腫瘍例41例の臨床的観察.....荒木 博孝・ほか... 581

Mixed Gonadal Dysgenesis (混合型性腺形成不全症)の2例.....居原 健・ほか... 589

膀胱平滑筋腫.....高瀬 通洋・ほか... 601

肺に広範なCa沈着を来した1症例(英文).....沢西 謙次・ほか... 609

泌尿器科領域における点滴静注用 Minocycline の使用経験.....奥山 明彦・ほか... 615

前立腺肥大症に対する TSAA-291 の使用経験 (第1報)

—超音波断層法を用いた前立腺計測による

治療効果判定を中心として—.....斉藤 雅人・ほか... 621

前立腺肥大症における TSAA-291 の治療成績

—超音波計測による前立腺の縮小効果を中心として—.....澤村 良勝・ほか... 627

多発性再発膀胱腫瘍に対するカルボコンの膀胱内注入療法.....長山 忠雄・ほか... 633

慢性尿路感染症, 性器感染症に対する点滴静注用

ミノマイシンの使用経験.....山本 泰秀・ほか... 643

CONTENTS

Clinical Studies on Bulbocavernous Reflex —Simultaneous Recording of

Retrograde Urethral Resistance and Electromyography of External Urethral SphincterS. Iwasaki... 535

Radiological Assessment Demonstrating Extension of Renal Cell

Carcinoma into the Inferior Vena Cava.....F. Masuda et al... 545

Renal Function Study by ^{99m}Tc-DMSA Renal Scintigraphy in

Non-Obstructive Upper Urinary Tract Infection.....J. Kawamura et al... 555

Conjoined End-to-End Ureteroileal Anastomosis for Ileal Conduit.....F. Masuda et al... 569

Selection of the Treatment for Bladder Cancer in ElderliesA. Imagawa et al... 575

A Clinical Survey on 41 Cases of Testicular TumorH. Araki et al... 581

Mixed Gonadal Dysgenesis : A Report of Two CasesK. Ihara et al... 589

Leiomyoma of the Urinary Bladder : Report of a CaseM. Takase et al... 601

Diffuse Interstitial Pulmonary Calcification in Uremia:Report

of a CaseK. Sawanishi et al... 609

Clinical Effect of Minocycline Intravenous for Disease of

Urinary TractA. Okuyama et al... 615

The Effect of TSAA-291 on Patients with Benign Prostatic Hypertrophy (1st

Report)—Determination of the Effect by Prostatic Measurement Using

Transrectal UltrasonotomographyM. Saito et al... 621

Clinical Studies on TSAA-291 in the Treatment of Benign Prostatic Hypertrophy

—Reduction Effect on the Prostatic Weight Using Transrectal

Ultrasonotomography—Y. Sawamura et al... 627

Intravesical Instillation of Carboquone for the Treatment of Multiple

and Recurrent Bladder Tumors.....T. Nagayama et al... 633

Intravenous “Minocycline” in the Treatment of Chronic Urinary

Tract Infection and Genital InfectionY. Yamamoto et al... 643

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606.

京都大学医学部泌尿器科学教室

泌 尿 紀 要

Acta Urol.

編 集 後 記

Margaretha Kolbは Offenbach の医師から Heidelberg 大学の Gustav Simon 教授へ紹介されてきた。左卵巣のう腫の手術を受けたあと腹部にできた urethro-peritoneal fistula からの尿漏に悩んでいた。

Simon は, Kolb を入院させたあと、偏腎摘除が安全であるか、手術をするならその手技はどうするかを知る目的で、イヌを使って何回も何回も実験を繰り返した。

"He operated upon Frau Kolb under narcosis (chloroform) on August 2, 1869. He decided on an incision through the lumbo-sacral muscle and through the musculus quadratus lumborum. Thanks to his elaborate and detailed preparations, the operation—the first of its kind—lasted only 40 minutes from the incision until the completion of final stitches! This is a great tribute to the intellectual genius and extraordinary manual dexterity of Simon! (W. W. Nowinski and R. J. Goss 編 "Compensatory renal hypertrophy" W.W. Nowinski 著 "Early history of renal hypertrophy" より)。このあと尿量がしばらく減少していたが、術後4カ日目に抜糸を受け、11月に退院したという。全く健康になってその後2年間は Simon を訪れることもあったが、たまたま世界で最初の planned nephrectomy の被術者となり、医学史の片隅に名をとどめた彼女もその後は再び無名の世界に消えていった。

この Simon の手術を契機としてつぎの10年間に28例(手術死18)の、さらにその後の4年間に143例(手術死59)の腎摘除術が行なわれた。(T.K.)

編 集 委 員

石 神 裏 次	前 川 正 信	宮 崎 重
新 谷 浩	園 田 孝 夫	友 吉 唯 夫
桐 山 菅 夫 (副主幹)	吉 田 修 (主 幹)	

購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料 5,000 円(送料とも)前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は400字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けます。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, pH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR など、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
B 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受け付けはいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部, 書留便。

泌尿器科紀要 第25巻 第6号

1979年6月25日 印刷

1979年6月30日 発行

創刊 稲 田 務

顧問 加 藤 篤 二

定価 500 円(送料別)

発行 吉 田 修

発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入